

常磐文藝

病吟

飯村 開舟

Y病院の、一室に
病床に臥せる、君の
呻吟な、凄愴しき
寒れした、姿はと
蒼一人思ふ、寂寥な
響き出でくる、涙こそ
闇々として、哀情を
蘇ぞ得ぬこそ、かなしか

近く着本

國際 新年號
寫眞 新年號

附録「世界漫畫鳥瞰
圖」を添付

一部金壹圓
至急御申込め

磐城 代理部
新館 (電話五六四番)

△土地建物
賣買并ニ是ニ關ス
ル萬般ノ御相談ニ
應ズ

△床板、床縁
落掛
澤山新荷着

◎大谷石 本場一等
品寸法御望次第

磐城建物
株式會社
平町五丁目
電話五一八番

東郷の茶 (川柳)
春三
春之年の前小さい松が多
く賣れ

年の暮へんな顔をするア
コヒソル
年の暮の笑顏の梅土産

長く考ふ
無駄水の
うとらかな
流れに等し
古へより
哀情を注ぎ
泣かしむは
寺院の鐘の
夕餉ごき
鳴り響きくる
梵鐘よ (完)

貴家の幸運

龜田屋の特價大賣出し

▽震災相續を二獻して、眞の奉仕相場を現出した
いと苦心の結果、今回大賣出しを催すこととなり
ました。

- 一、錦紗小紋、綿 仙
- 一、珍柄ニコニコ、瓦斯縮
- 一、二重 煙、コート
- 一、毛子リ外套、シヨール
- 一、友仙縮緬、友仙モスリン
- ▽御仕着物、御婚着物、七五三祝物
- ▽セビ御近所の方々に誘合せ下され、一度御覽下
さいまし

平町三丁目 (電話五七番)

龜田屋吳服店

粹で上品な下駄を

御求めの際は

是非

平町二丁目 (電話一五六番)

三井ハギ店

特價大賣出し

〔時 十二月十六日ヨリ
一日二十一日マデ一週間〕

- △友仙 毛斯小巾 十 八 錢
- △白時赤ネル一文 一圓三十錢
- △木綿裏地 九十五 錢
- △遠州正紺縮 一圓十八錢
- △ニコニコ縮 一圓五十五錢
- 其他種々

大々の廉賣

平町 (電話二二番)

鹽屋吳服店

株式會社 丸登株式會社

平町田町電話三三三番

左記の値段は日本の標準値
に付御用の節は御問合願候
銘格 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實銀	三〇〇	三〇〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一一五	一一五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
同 新	五〇〇	五三〇
同 新	一一五	一四五
七七銀行	一一五	九五
同 新	五〇〇	三七五
同 新	二五〇	一七五
只見川電	一一五	六〇
植田水電	一一五	一三五
好間水電	一一五	一三五
磐城建初	一一五	五五
磐城製菓	二〇〇	六五
平信託	五〇〇	四九〇
磐城勸業	一一五	一三五
磐城勸業	三〇〇	二五〇
平製水	二〇〇	二二〇
同 新	五〇〇	三五〇
同 新	一一五	一一五
小名商埠	一一五	一一五
小名水産	一一五	一一五
小田炭礦	二五〇	五五
磐城炭礦	五〇〇	三七五
同 新	二二五	一五〇
同 新	五〇〇	九一〇
同 新	一七五	三七〇

丸登株式會社
川添房二郎

一、部金貳圓 月報
ニ限リ一ヶ月刊行
料費廣

五號十三字詰
一行五十錢

日刊休

日曜 大祭
祝日の翌日

所刷印

福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社印刷部

發行兼
編輯人

川崎文治

所行發

福島縣石城郡平町
字長橋町五番地
常磐毎日新聞社



二十二月廿四日夕刊

現代文化と
偶像崇拜 (三)

永久保 夏畔

實際現代人は其の生活に
は備み切つてゐる、それだ
のに反面に於ては其の生活
の點に於て理想の點に於て
はあくまで過去のそれに習
らうとする所謂傳統的思想
にとらはれてゐる一群の人
間の居ることは疑はれない
事實である、それか殊に文
化の程度低しき地方に多い
ことは甚だ遺憾とする點で
あるが又た當然な事實であ
れば止むを得ないはりであ

然しながら一切の傳統的
思想を根本より破壊して個
性の自由と權威とを極度に
主張して立つた群のアイコ
ノクラストの表れたことは
必然なことであらう。
世は斯くまで進化してゐる
現代文化を中傷してゐる總
べての思想を對照として吾
々文化人は個性の自由と權
威との爲めに戦はなければ
ならない。コンベンシヨナ
リズムの頭目であつた竹内
仁の養父竹内某はあれ程の
天才をして養父母を殺し而
かも自殺せしめた竹内仁を
私は惜しむのである、天才

は狂氣だと云ふから或は當
を得てゐるかも知れないが
あれ程の人物を殺したのも
其の養父母の罰だつた。彼
れ等は明かに偶像崇拜の親
玉だつた元來信仰の對照と
して造つた神佛の所謂偶像
を崇拜すると云ふことは文
化の未だ進歩しなかつた時
代に於ては當然なことであ
つたかも知れないが文化の
斯くまで進歩した現代に於
てそれを崇拜しながら社會
改造を叫ぶとは其の迷忘も
甚だしいと言はぬはならな
い。

年賀郵便を廢し 新聞利用が最も得策

郵便局は繁雜に堪えないと 森平局長が語る

年賀郵便差出の期節であるが、年賀郵便の葉書在庫品は、前年より五萬枚である、昨年此期節に卅五萬枚も賣つて居るのだから、

五萬枚ではどうして足らず森局長も種々苦心して居るが是れ迄個人や函場に賣下げたものは十萬枚ある、この全部を年賀郵便に使用しても尚且廿萬枚は不足して居る譯である、補充策としては私製品を以つて切手別納扱へにして貰ふのが最善の方法だが從來

不歸依更迭を決議し 住職の連判状を作し

懲戒處分されても改悔せず 空文同様な總代囑託状を發す

既報平町菩提院住職排斥問題は、其後桐原住職が窮餘の一策に永野辯護士を訴訟代理人として總代鈴木堅助氏外五名に對し、

會計書類並びに再建基金積立引繼請求の訴訟を提起した爲め頗る檀家の反感を招き、桐原住職の非を鳴らす者多く殆んど收拾の途なき状態に陥つたが更に住職は如何なる苦肉の策を

附せる 囑託状の如きは一片の空文に過ぎざる爲の檀徒の空文に過ぎざる爲の檀徒の空文に過ぎざる爲の檀徒

徳積卯之吉 野崎満藏 金子 野崎真吾 鈴木 柏原幸次郎 鈴木 多利吉 岡田長太郎

平衛生會の 役員決定 昨日役場にて 平衛生會は既記の如く廿三日午後七時から平町役場にて開會飯田一二翁

（會長）酒井國三郎（副會長）市原卯太郎（評議員）清水廣政、矢吹大輔、星恒明、鷹崎貞衛、飯田一、酒井寅之助、渡邊太次郎、伏見彦衛、大森勇吉田安雄、鈴木堅助、高久忠、羽岡平三郎、根本莊次郎、松村鐵郎、藤沼平次郎、藤沼大森、根本莊次郎、鷹崎貞衛、藤沼平次郎、藤沼平次郎、渡邊太次郎

次ぎに左記の決議事項を異議なく可決し散會した 病院内に快氣室建設の件 衛生車設備の件、塵芥運搬設備の件、五丁目裏蓮水を飲料水及び使用嚴禁の件、町内街路に撒水を施行の件、以上を當局に

建議す 織物同業 組合を新設 石城郡内に於ける織物製造業は年次盛況を呈し縮細を主として年産額約三千反に及び益々増加の傾向である

不平受付 伊藤中署長の答... 數日前以前當署に呼んで三日間以内退去する條件を附し水戸に居る兄の許に行かむべく旅費送給したのですが未だ徘徊して居るには困ります再び退去の方法を構はせませう

眞性慾問題 胎兒が生み出された後で始めて呼吸運動が起る、今まで結んで居た口が開き、又かつて何物をも通した事のない鼻口を通じて空氣が喉頭、氣管、氣管支、肺胞と云ふ順に浸入して來る、空氣が喉頭を通過する時に音帯は始めて振動して人生の曉を告げる處の呱呱の聲となる、此の第一の呼吸運動は胎兒の頭部が産道の外へ押し出された後に起るものであつて、若し誤つて産道の途中にある間に呼吸運動が行はれるならば空氣の代りに血液の類が氣道に浸入することとなり、胎兒は窒息して死んで仕舞ふ、だからあの赤ん坊の産聲に發せられる時期は頗る重要なものである、呼吸運動は胸部の筋肉、横隔膜の收縮等によつて胸部が擴大される結果、胸部内に陰壓を生じ、外界の空氣が吸ひ込まれるために送る一種の物理的現象であるが、此の呼吸運動は胸の中の呼吸中樞によつて調節される。

常磐片々

菩提院の住職が丸い頭に角を立てたばかりに問題益々悪化 擲筆怒つて連判状を作る 七代祟られる氣か 是非曲直は別物として鼻もちならぬ僧侶の訴難沙汰 森郵便局長、年賀状の新聞利用を説く 平教育會も暇つぶしの雜シ

雜誌を發行

題號は『教育』 平教育會では今回教育事業

（副組合長）窪田村森勝男（評議員）平町正木鎗太、下小川村大和田庄吉、田八村赤津長次、植田町藤適清吉

不平受付 伊藤中署長の答... 數日前以前當署に呼んで三日間以内退去する條件を附し水戸に居る兄の許に行かむべく旅費送給したのですが未だ徘徊して居るには困ります再び退去の方法を構はせませう

眞性慾問題 胎兒が生み出された後で始めて呼吸運動が起る、今まで結んで居た口が開き、又かつて何物をも通した事のない鼻口を通じて空氣が喉頭、氣管、氣管支、肺胞と云ふ順に浸入して來る、空氣が喉頭を通過する時に音帯は始めて振動して人生の曉を告げる處の呱呱の聲となる、此の第一の呼吸運動は胎兒の頭部が産道の外へ押し出された後に起るものであつて、若し誤つて産道の途中にある間に呼吸運動が行はれるならば空氣の代りに血液の類が氣道に浸入することとなり、胎兒は窒息して死んで仕舞ふ、だからあの赤ん坊の産聲に發せられる時期は頗る重要なものである、呼吸運動は胸部の筋肉、横隔膜の收縮等によつて胸部が擴大される結果、胸部内に陰壓を生じ、外界の空氣が吸ひ込まれるために送る一種の物理的現象であるが、此の呼吸運動は胸の中の呼吸中樞によつて調節される。

坂本孝正氏の 油繪展覽會

美術普及の爲 石城郡鹿島村の出身であつて美術學校を卒業した坂本孝正氏は新春元旦から四日間平商業學校に於て油繪個人展覽會を開催する筈であるが初日は學生デー、二日は招待デー、三四の兩日を一般公衆の觀覽に當てる由

平教育會で 雜誌を發行

題號は『教育』 平教育會では今回教育事業

平裁判だより

△南町 柳田捨四郎三女清子 △一丁目 鈴木兼儀二女キ子 △白銀町 菅井廣太郎二女ミヨシ △死亡 △四丁 目丸山小平治（八三） △古鍛冶町 市川寅治（六八） △彌宜町 安積巳之松（七五） △久保町 當時千葉縣津郡中村秋山信守（三三）